

# 競 技 注 意 事 項

## 1 競技規則について

本大会は、2023年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会競技注意事項によって行う。

## 2 招集について

- (1) トラック競技の招集所は第1ゲート（100 mスタート地点）スタンド裏付近に設ける。  
フィールド競技の招集は、競技実施場所（現地）で行う。
- (2) 招集開始時刻（点呼開始）及び招集完了時刻（移動開始）は競技順序に記載されたとおりとする。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場するものとして処理する。
- (4) 招集の手順
  - ① 競技者は招集開始時刻には招集所に待機し、最終確認を受けること。その際、上半身は競技服装になり、アスリートビブス・競技用靴・衣類・商標・持ち物の点検を受けること。
  - ② 携帯電話・外部との通信機能のある腕時計もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことはできない。あらかじめ学校関係者に預けておくこと。
  - ③ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
  - ④ 代理人による招集の最終確認は認めない。但し、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに招集所に届け出ること。
  - ⑤ リレー競走に出場するチームは、招集所に用意してあるオーダー用紙にオーダーを記入し、その種目の各組の招集完了時刻1時間前までに招集所へ提出すること。また、決勝においても、予選に準じて招集完了時刻1時間前までに提出すること。用紙は競技者係から受け取ること。
  - ⑥ 混成競技の招集は、第1日目および第2日目の最初の種目については、競技順序に記載された招集時間のとおりに招集所で行う。2種目以降は、混成競技者控え所で確認を受け、当該競技役員の指示に従うこと。

## 3 競技について

- (1) 当該種目出場の競技者以外は、競技場内に立ち入ることができない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (3) 不正スタートについては、混成競技を除き、一度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートした競技者は、すべて失格とする。
- (4) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代することができる。この規則に従わなければ、チームは失格となる。
- (5) 4×400 m Rの第3・第4走者は、前走者が200 mスタート地点を通過した順序で、内側より並び待機する。その後、待機している走者は、この順序を維持しなくてはならず、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。違反した場合は、そのチームを失格とする。なお、バトンを渡し終えた走者は他チームの進路を妨害しないように留意すること。
- (6) 800 m競走の予選はオープンレーンとし、準決勝・決勝については100 mまでをセパレートレーンとする。
- (7) 男子5000 m・3000 m S C、女子1500 mについては、タイムレースとする。
- (8) 三段跳の踏切板の位置は、男子10 m 00、女子9 m 00で行う（荒天時は審判長に一任）。
- (9) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて審判員の指示に従うこと。

- (10) フィールド競技において、カットラインを設けることもある。設ける場合は監督会議で示す。

#### 4 アスリートビブス（以下ビブス）について

- (1) ビブスはユニホームの胸部と背部につけること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、走幅跳・三段跳・走高跳・棒高跳は胸部または背部のみでよい。また、トラック競技出場者は、招集所で配布される写真判定機用の腰ナンバーカードを右後方につけること。
- (2) 男女とも、混成競技の最終種目では、総合順位（現時点）の上位者から順番に、統一した別ビブス（胸部のみ）を使用する（背部はプログラム記載のビブス）。別ビブスは、混成競技係より配布する。

#### 5 競技場の中に商品名のついた衣類・バックを持ち込む場合について

- (1) 日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規則」を適用する。
- (2) 競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。

#### 6 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順ならびにフィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝については、主催者がルールに則り、組み合わせおよびレーン順を決定する。フィールド競技（走高跳・棒高跳を除く）の決勝については、3回の試技で8人を選出し、記録した成績の低い順に、あと3回の試技をする。
- (3) トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき（以下同タイム者という）は、写真判定機で拡大し、細部（電気計時1／1000秒）まで読み取り着差の判定をする。それでも判定できない場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。場内アナウンス後20分を経過しても該当者が現れない場合は権利を放棄したものとみなす。一人も現れない場合は、主催者が代行して抽選を行う。

#### 7 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、すべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用のポールに限り個人所有のものを使用することができる。
- (2) やり・円盤・ハンマーに関しては個人所有のものであっても検査を受けて使用することができる。ただし、検査を受け、認定された用具は本競技場の所有用具として取り扱い、参加競技者で共有できるものとする。借り上げた用具は、競技終了後に総務員から返却する。なお、借り上げた用具が破損しても責任は負わない。
- (3) 競技用靴については、WAシューズ規定を適用する（TR5.5）。ただし、フィールド競技用靴については、日本陸連の示す移行措置を適用し、現行販売されているフィールド競技用靴（スパイク・スローイングシューズ）については、靴底厚確認のための計測は行わない。規定外のアップシューズ等は許可しない。

#### 8 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

- (1) 走高跳・棒高跳における競技中のバーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、下記のとおりとする。練習の高さは、最初の高さを含め審判長の判断により原則3段階設定する。なお、気象条件等により変更することもある。

〔男子〕

走高跳 1.60（練習） 1.65－1.70－1.75－1.80－1.83（以後3cm上がり）

棒高跳 2.40（練習） 2.60－2.80－3.00－3.20－3.30（以後10cm上がり）

〔女子〕

走高跳 1.30（練習） 1.35－1.40－1.45－1.50－1.53（以後3cm上がり）

棒高跳 1.80（練習） 1.90－（以後10cm上がり）

- (2) 混成競技走高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。  
八種走高跳 1.35 (練習) 1.40 - (以後 3 cm 上がり)  
七種走高跳 1.05 (練習) 1.10 - (以後 3 cm 上がり)  
※ただし、スタートの高さについては選手の状態を見て柔軟に対応する。
- (3) 第 1 位が同成績の場合における順位決定のバーの上げ下げは、走高跳で 2 cm、棒高跳で 5 cm とする。

## 9 結果発表と抗議と上訴について (TR8による)

- (1) 各種目の結果発表はアナウンスで行う。また、ホームページに掲載する。
- (2) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果が正式発表されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目では 15 分以内）に、競技者本人または代理人が、担当総務員を通じて口頭で行い、別室で待機する。なお、正式発表の時刻とは、アナウンスの時刻とする。
- (3) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、委託金（1 万円）を添えて「上訴申立書」を、担当総務員を通して Jury に提出すること。なお、「上訴申立書」の提出時刻は、抗議者に対してその旨が通告されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目では 15 分以内）とする。

## 10 表彰について

- (1) 各種目とも 3 位までの入賞者は表彰をするので、競技終了後、正面スタンド下中央通路の表彰控え所に集合すること。各校の競技用ユニホーム（下はジャージ等着用）で表彰を受けること。
- (2) 団体の表彰は、男女別に総合・トラック・フィールドの部のそれぞれ 3 位まで行う。なお、同点の場合は、上位種目の多い学校を上位とする。混成競技の得点は、総合のみとする。
- (3) 入賞者の得点は、1 位 8 点・2 位 7 点・3 位 6 点・4 位 5 点・5 位 4 点・6 位 3 点・7 位 2 点・8 位 1 点とする。

## 11 その他

- (1) 監督は常に選手を把握し、万一選手に事故があった場合には主催者に連絡すること。
- (2) 事故については応急処置のみ行い、以後、各参加校の責任において処置すること。
- (3) 貴重品の保管については各自が行う。もし盗難にあっても責任を負いかねるので十分注意すること。
- (4) 記録の証明を希望する競技者は、庶務係に 300 円を添えて申込み、庶務係から受け取ること。
- (5) 当日の記録は、鹿児島陸上競技協会ホームページに掲載する。
- (6) 競技場内での写真撮影は、大会本部の許可を受けること（報道カメラマンのみ許可する）。
- (7) すべての応援はスタンドで行うこと。集団応援は、正面スタンドでは禁止する。また、フィールド競技の進行に配慮すること。
- (8) 各種目の 3 位までの入賞者は、全九州大会の出場に関する確認作業のため、表彰の後に必ず本部席まで集合すること。トラック競技の決勝において、3 着が同着・同タイムの場合は、3 着の者全てが全九州大会への出場権を得る。
- (9) 個人情報は本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません
- 個人情報の取り扱い ① 大会プログラム掲載  
② 競技場内でのアナウンス等による紹介及び掲示板等への掲載  
③ 競技結果の報道機関・報告書等への掲載  
④ 新記録や優勝結果等の大会プログラム（次年度以降）への掲載  
⑤ 報道機関が撮影した写真・映像の公開

# 【競技会で使用する略語・略号】

|       |          |                          |     |          |                |
|-------|----------|--------------------------|-----|----------|----------------|
| N R   | 日本記録     | (National Record)        | D Q | 失格       | (Disqualified) |
| = N R | 日本タイ記録   | (Equal National Record)  | Q   | 順位による通過者 | (Qualified)    |
| N J R | ジュニア日本記録 | (National Junior Record) | q   | 記録による通過者 | (qualified)    |
| G R   | 大会記録     | (Game Record)            | ○   | 成功（有効試技） | (Cleared)      |
| = G R | 大会タイ記録   | (Equal Game Record)      | ×   | 失敗（無効試技） | (Failed)       |
| N M   | 記録なし     | (No Marks)               | ー   | パス       | (Pass)         |
| D N S | 欠場       | (Did Not Start)          | r   | 試技放棄（離脱） |                |
| D N F | 途中棄権     | (Did Not Finish)         | 厚   | 厚底シューズ使用 |                |

## 本大会での撮影規制について

競技者の人権と大会の権利を保護するために、競技会におけるカメラ・ビデオ等の撮影について、以下の制限（報道関係者と大会運営に関するものは、除く）を設けます。皆様のご理解とご協力をお願い致します。また、撮影時に競技役員が、声をかけることもあります。趣旨をご理解いただき、ご協力お願い致します。

- 競技区域内では、事前に許可を得た報道等の関係者のみが撮影可能となります。報道関係者には「ビブス」と「撮影許可証」を受付にて準備します。
- 学校関係者・保護者・家族等による写真撮影について

競技場スタンド内の禁止された場所（下図撮影禁止区域内）での撮影は禁止します。

- トラック種目のスタート時の前方・後方
- トラック種目のゴール付近
- 跳躍競技の助走後方，着地正面
- 走高跳・棒高跳等のマットに向かった正面

